

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。  
 ○よく考え進んで行動する子 ○思いやりのある子 ○からだをきたえる子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切に作る学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考え進んで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心もち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○自己研鑽に励み、努力を惜しまず、実践を大切にする教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 《学校の現状》

- コロナ禍で学校生活が制限される中、学習面でも生活面でもできることを精一杯している。元気よく大きな声で挨拶することは制限されているが、黙礼や小さな声での挨拶などしっかりできている児童が多い。学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつあり、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。29名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。

### 《前年度の成果と課題》

#### ○基礎的・基本的な学習内容の定着

学校生活が制限される中、11月より放課後の「平野スキルアップタイム」や補習教室によって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童には、そだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては春休みに補充教室を実施してきた。児童全体の基礎基本の定着度の底上げができてきた。通過率も向上し区の平均を上回った。理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。

#### ○心の教育の充実

年間を通してコロナ禍での挨拶について指導してきた結果、黙礼や小さな声での朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。挨拶に対する保護者からの肯定的な評価は87.3%で、調査した10項目の中では、まだ一番低いため、朝や帰りだけでなく日中もふくめ、場に応じた挨拶

援ができるようさらに指導していく。

・教員一人一人が足立スタンダードによる授業実践を通し、授業改善・指導方法の工夫に努めた。6月に実施された区学力調査では、通過率が87.5%で昨年度を上回った。11月より放課後「平野スキルアップタイム」を継続し、学力調査の結果をもとに学力向上委員会が中心になって計画を立て、各クラスで放課後の補充学習をしたり、担当教員による補習教室を実施したりするなどして、さらなる学力の向上に向けて取り組んできた。区学力調査を活用した2月の現学年調査では、通過率が82.7%だった。結果集約後、年度末までの授業や春休みの補習教室を通して、子供たちの基礎学力の更なる定着を図ってきた。

・小中連携については、コロナ対策で実施できなかった代わりに、校内研究として国語科で研究授業を3回実施し、教員の指導力の向上を図った。今年度は、ペアを組む小中3校で年度当初に立てた計画に基づいて実施する予定である。

・毎日課題を出し、家庭学習は定着した児童が多いが、さらに自主的に家庭学習ができる児童を増やしていく。

・子供たちの総年間読書冊数は、76000冊を突破し、一人あたりの年間読書冊数は、平均150冊を達成した。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上を推進する（学力向上アクションプラン）	○	○	○	○	○
2	豊かな人間性を育成する	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携を図る	○	○	○	○	○

#### 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上を推進する（学力向上アクションプラン）							
A 今年度の成果目標		達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎学力の定着、思考力・表現力の向上		年度当初－86% 1月－95% 3月現学年－75%	年度当初－86.5% 1月－95% 3月現学年－77.3%		コロナ禍でも学力を維持することができた。引き続き学力向上・定着を図る。学習の定着状況と具体的な取り組みは6(1)を参照。			○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	スキルアップタイム	全児童 国語 算数	毎日 (B 時 程・土曜 授業日 除く)	担任が、次へのステップ、 東京ベーシックドリル、漢 字・計算プリント等を活用し て、漢字・計算の基礎を身に 付けさせ、学力を定着させ、 弱点を克服する。	全校で共通し たワークテ ストを活用し成 績ファイルで 確認する。	国語と算数のワ ークテストの平 均点87点以上 2月の現学年調 査は目標値の通 過率75%	1月末現在 全学年ワークテストの 平均点 国語-84.4点 算数-88.8点 現学年調査通過率 3月末現在 国語-76.5% 算数-78.1%	・コロナウィルスの感 染状況に応じて平野ス キルアップタイムを実 施し、基礎学力の定着 につながるようにした ・観点別ポートフォリ オを活用して理解不足 の解消に努めた。 ・基礎学力のさらなる 定着をめざす。	○
2 継続	放課後補充 教室	全学年 目標値に 達してい ない児童 国語 算数	毎日 (月別 に学年 を指定)	専科、学習支援ボランテ ィアが漢字・計算プリント等を活 用して、つまずきをさかのぼ り、少人数指導を行う。 反復して学習させることで 基礎学力の定着を図る。	学力調査の再 調査(全児童) 9・1月実施 現学年調査 2月実施	学力調査の再調 査通過率95% 2月現学年調 査通過率75%	1月の再調査通過率 国語-91.5% 算数-90.2% 3月の現学年調査通 過率 3月末現在 国語-76.5% 算数-78.1%	毎月、担当学年を決 め、学年の内容を超 えて復習できる環 境を整えた。 学力の底上げにつな がった。	○
3 継続	長期休業期 間中の補充 教室	全学年 (春季は 1~5年) 国語 算数	夏休み 13日 (1・2 年は8 日間) 冬休み 2日間 春休み 3日間	全教員と学習支援ボランテ ィアが漢字・計算プリント、 学力調査過去問題・類似問 題、東京ベーシックドリル、 次へのステップ等を活用し て、学力調査で目標値に達し なかった児童や担任が気にな る児童を中心に問題を解 き直したり、補充問題に取り 組んだりすることで、基礎学 力の定着を図る。	学力調査の再 調査(全児童 対象)9・1 月実施	学力調査の再調 査は目標値の通 過率95%	1月の再調査通過率 国語-91.5% 算数-90.2%	コロナウィルス感染 症拡大のため夏休み は6日間。 冬休みは2日間実施 春休みは3日間実施 予定。 再調査は1月のみ実 施した。	○
4 継続	「学年別家 庭での自主 学習」の発 行	全児童 全教職員 に発行	4月に 配布	保護者会資料として配布し、 家庭にも学力向上への取り 組みに理解をしていただく。 全校で毎日、漢字、算数、音 読の宿題を出すように共通 理解し、未提出の児童は、そ の日の内に放課後等の時間 を使って終わらせる。	宿題提出簿 家庭生活調べ	宿題提出率 100%	家庭学習の達成率 12月末まで 全校で87%	宿題を忘れてくる子の 固定化が課題となっ ている。 さらに自学を含めた家 庭学習の充実を推進し ていく。	○

5 継続	百人一首句間	国語 全児童	7月 12月	小倉百人一首、五色百人一首を使用し日本の伝統文化である百人一首に親しみ、古語の響きの良さに気付かせる。	百人一首暗唱カード	各学年で20首ずつ覚える。	20首以上暗記人数 7月-123名 12月-255名	12月の達成数は昨年度の2倍、昨年度より90名増えた。	◎
6 継続	読書活動の推進	国語 全児童	読書記録は年間を通じて取り組む。火・水・木曜日の朝読書 読書句間-6月 読書月間-10月	毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。 ・朝読書(週30分×35週=1050分) ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介 ・教師による読み聞かせと本の紹介 ・読書句間-低学年20冊、高学年500ページ ・読書月間-低学年40冊、高学年1000ページ ・年間読書冊数の目標を各学年ごとに設定する。	読書記録で確認する。 読書句間・月間の目標達成者は校長室に報告に来る。	全校児童で年間の読書冊数 75,000冊 年間個人読書冊数 1年-250冊 2年-210冊 3年-130冊 4年-100冊 5年-80冊 6年-70冊 4組-130冊 6割達成	朝読書等計画通り実施できた。 全校読書冊数は2月末80293冊 個人読書冊数達成者 1年-39名 2年-35名 3年-32名 4年-37名 5年-25名 6年-14名 4組-20名 計212名	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、外遊び等が制限されるため、読書活動を推奨してきた。今後も読書活動を推進していく。	◎
7 継続	俳句コンクール	国語 全児童	6月 10月	身近な生活の中で感じたことや自然現象などを、短い言葉で表現することにより、物事を見つめる目を養い、豊かな感性を養う。 ・俳句コンクール(6月、10月) ・校長室前に投句箱を設置し年間を通して校長俳句会を実施。 ・外部の俳句大会にも応募	各学級の廊下で俳句作品展 優秀作品の紹介。	5・7・5のリズムで季語を用いた俳句を全員が作る。	計画通り、6月10月に校内俳句コンクールを実施。 優秀作品を一覧表にして教室前に掲示。 年間を通じて、校長室前で校長先生俳句会を実施。	各クラスの代表作品を一覧表にしてホームページに掲載し紹介した。 校長先生俳句会にも毎月たくさんの投句があった。	◎

8 継続	授業力・指導力の向上	全教科 全教職員	年間を通じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間8回の小中連携</li> <li>・全教職員による教科別分科会と授業研究を実施</li> <li>・区や都の研修会への参加、のべ100回以上。</li> <li>・ICTを活用した授業をする。</li> </ul>	研究会参加。 区や都の分掌に関わる命令研修以外に研修へ参加。	全体会2回、 授業研究6回 一人4回以上研修会に参加。 担任全員が週3日以上ICTを活用。	分科会3回、 授業研究3回実施 ・区小研への参加は 90% ・研修会参加延べ 110回	コロナウィルス感染症拡大のため、小中連携の計画を部分修正しながら分科会、授業研究を実施した。	○
9 継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	<p>足立スタンダードに基づいた授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統立てて学年別にノートを選定し、低学年は、マス黒板を使って指導する。</li> <li>・ワークテスト(国・算)を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。</li> <li>・漢字の速習(2～6年生は12月まで、1年生は1月までに当該学年で学習する漢字の指導を終える。)</li> </ul>	管理職、教科指導専門員による授業観察。  ワークテストの経年比較データの活用。	全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。	毎時間、問題解決型の学習展開を意識して指導を実践した。 ワークテストの統一や漢字の速習は、予定通り実現できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題・ねらい・まとめを常に板書し、児童に本時の目当てを意識させた上で、問題解決型の学習を展開できた。</li> <li>・漢字は12月までに速習し、1～3月で習熟、活用できるように各クラスで取り組めた。</li> </ul>	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな人間性を育成する			
<b>A</b>	<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
	様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する	学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている95%以上の肯定的評価	学校評価項目、「子供は、明るく元気に学校生活を送っている」の肯定的評価 94%	子供たちの人権に配慮しながら問題行動の早期発見・早期解決に努めている。	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
	<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>

縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班遊び年18回</li> <li>縦割り班給食年2回</li> <li>縦割り班集会年3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し土曜授業日の中休みを30分間にして縦割り班遊びを十分とる。</li> <li>給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。</li> </ul>	縦割り班の編制までしたが、新型コロナウイルス感染症拡大が収まらず、今年度の縦割り班活動は、1月現在見合わせている。実質的な活動はできなかった。	子供たちの成長にとって異学年交流は欠かせないので、次年度も計画し、新型コロナウイルス感染症拡大が収まればすぐに活動できる状態にしておく。	●
幼稚園、保育園、中学校との連携	児童・園児・生徒の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の見学、給食体験、1年生との交流や保育体験をする。</li> <li>学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。</li> <li>中学校での一日体験をする。</li> <li>百人一首大会前に、中学生との合同練習をする。</li> <li>吹奏楽の合同練習・発表会をする。</li> <li>長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。</li> </ul>	<p>学校生活の様子を動画にして、幼稚園・保育園に配付した。園児に小学校の生活の様子を知らせ、入学に向けての意欲を高めることができた。</p> <p>保育園の保護者を対象に1年生になるまでにやっておきたいことについての講演をした。</p> <p>持久走大会で幼稚園の先生にお手伝いをお願いした。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症状況が収まらず、取り組みが制限されたが、その中で可能な内容を考え実施した。</p> <p>次年度も感染状況を踏まえながら、行事の参観や小学校体験・体験給食等、例年通りの連携を実施していく。</p>	△
道徳の授業の充実と挨拶運動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業の充実</li> <li>学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている90%</li> <li>オリンピック・パラリンピック教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。</li> <li>朝と帰りだけでなく日中の挨拶について強化する。</li> <li>年間計画に基づく確実な実施をする。</li> </ul>	<p>道徳やオリンピック・パラリンピック教育について年間指導計画に沿って実施できた。</p> <p>挨拶は、コロナ対策として小声や黙礼を推奨してきた。おおよそ身についた。</p>	<p>次年度も、思いやりのある子を育てるため、親切・生命尊重・友情を重点にする。</p> <p>挨拶をさらに強化する。</p>	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		家庭・地域との連携を図る			
<b>A</b>	<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
	家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。	保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均95%	コロナ禍で保護者の学校評価を6項目にしぼった。 プラス評価の平均 92.5%	概ねよい評価であったがさらに信頼される学校をめざしていく。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	・保護者の学校評価10項目において プラス評価の平均 95%	・保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校HP・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 ・生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。	コロナ禍で、評価項目を6項目に変更して実施した。 保護者の学校評価6項目において プラス評価の平均 92.5%  生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発した。	他校ではほとんど例を見ない専科便りを学校便りと同様に毎月発行するなど、学校を外に開くための工夫をしているが、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止対策のため教育活動を参観してもらう機会がほとんどなかった。ホームページ上で紹介するなどの工夫をした。	○
環境教育の推進	・エコキャップ活動への参加	・学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。回収量170kg。 ・給食の残滓率2.2%以下	・校内3カ所にエコキャップ回収ボックスを設置し、学年便りや担任が呼びかけ推進した。今年度の回収量は2月末127kg ・給食の残滓率 4月～2月末まで2.2%	地域の方々も趣旨に賛同しエコキャップの回収に協力していただいた。 給食は引き続き残滓率が下がるよう指導していく。	○
開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜授業日には、パソコン学習のボランティアとして参加要請する。 ・土曜事業として着付け教室、そろばん教室、理科教室、スポーツ教室等を計画実施する。	コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、運営委員会を1回、協議会を1回開催、した後は、教育活動の様子を書面で知らせるだけになった。 土曜授業日のパソコン学習のボランティアも中止した 農業体験活動は年間を通じて実施しできた 土曜事業は漢字検定を実施した。	現在の状況が収まれば開かれた学校づくり協議会のすべての活動を以前に戻し活発化していく。	●

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

コロナ禍であっても子供たちの学力向上が大切であると共通認識し、学力向上委員会が中心になり、4月に実施された区の学力調査を分析し、朝読書（毎朝10分間）

や8年目となる放課後「平野スキルアップタイム」の確実な実施、算数ルームを利用した担当教員による補充教室を実施するなどして、学力の向上に向けて取り組んできた。小中連携による研究や校外での研修、教科指導専門員による指導等を通して授業改善・指導方法の工夫に努めた。区の学力調査では、5年生の算数の通過率が区平均に2%、6年生の国語が6%、算数が3%足りなかったが、その他はすべて区の平均を上回り、着実に伸びてきている。国語では、登場人物の心情や筆者の言おうとしていることを読み取ることが課題なので、授業の中で課題となる内容を質問する場面を増やしたり、友達同士で意見交換する場を設定したりしていく。算数では、図形領域や割合に課題が見られた。スキルアップタイムや補充教室で理解の向上に努めてきた。

本校の特色である農業体験活動を通して、具体的な活動や体験をしながら生き物を大切にしたり、環境を考えたり、地域の方々との交流をしたりして、豊かな心の育成を継続して行ってきた。保護者の学校評価については、肯定的な評価が評価6項目平均92.5%であった。次年度も、保護者や地域・学校運営協議会・開かれた学校づくり協議会と連携し、外部の方々の協力を得て、学校教育に対する関心を高めるとともに、知徳体の調和のとれた児童の育成を重点に全教職員の共通理解のもとさらなる充実した教育活動を推進していく。

## **(2) 保護者や地域へのメッセージ**

本校では、人権尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指すことが、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな大人になることにつながると考え、教育活動を推進して参りました。

学力向上については、一定の成果を上げ安定した成績を上げることができました。生活面においても問題行動の早期発見・早期解決に努めて参りました。この間、保護者や地域の皆様には多大なるご理解とご協力をいただき本当にありがとうございました。年末に皆様から寄せられた学校評価やご意見を生かしながら、来年度も子供たちが生き生きと学校生活を送り、保護者や地域の皆様から信頼される平野小学校になるよう努めて参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## **(3) その他（学校教育活動全般について）**

今年度は、コロナウィルス感染症拡大によりスポーツフェスティバルを11月に延期し学年ごとの入れ替え制にして実施しました。また、学芸会も実施することができず学習展示会に変更し、学年ごとの入れ替え制にして体育館で実施しました。そのほか、土曜授業日に学年ごとに体育の授業を公開したり持久走大会を参観したりしていただきましたが、やはり子供たちの学校生活の様子を十分に知っていただくまでには至りませんでした。来年度の年間行事予定は、年度末の保護者会にてお知らせしましたが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては大幅に変更する可能性もございます。あらかじめご了承のほどよろしくお願いいたします。

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために保護者の皆様には、多大なご理解とご協力をいただきました。現在もご協力いただいているところです。今年度の教育活動の内容や行動制限については、学校評価に書かれた以外にも各ご家庭様々のご意見があると思います。500名を超える子供を預かる学校では、都・区教育委員会の方針や区立小学校長会の意向等を考え合わせ、平野小の子供たちの安心・安全を第一に考え教育活動を実践してきました。来年度も、その時々状況に合わせて子供たちの安心・安全を第一に考え臨機応変に教育活動を進めて参りますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。